

（6）第3回 ワークショップ ～跡地活用プランを発表しよう！～

【日時】

2025年2月8日（土）

10:00～12:30

【会場】

町田第三小学校ランチルーム

【参加者】

14名

【プログラム】

○はじめに、本日のスケジュールの説明

○全体説明

・第2回ワークショップのふり返し

・本日のワークショップの進め方

○グループごとのワークショップ

テーマ1：町三小跡地の活用プランを仕上げよう！

テーマ2：どう運営するか考えよう！

テーマ3：活用スタートまでに、何ができる？

○話し合いの成果の発表

○来年度以降の検討について

○集合写真

■活用プランに完成に向けた前回のふりかえり

第2回ワークショップの振り返りからスタート。前回は、第1回で話し合った「町三小の魅力」や「跡地で将来やってみたいこと」をもとに、跡地の活用プランを考えました。どの組も敷地南側を広場にして、西側に建物を配置するなど、敷地の使い方に共通する部分が多くありました。

その一方で、北側の低地部分や斜面の使い方は、各組それぞれの個性あふれる提案が出されていました。



全体説明の様子

■アイデアあふれるグループワーク



なごやかに意見を出し合って相談



前回のおさらいをしながらコンセプトを議論

①「町三小跡地の活用プランを仕上げよう！」、②「どう運営するか考えよう！」、③「活用スタートまでに、何ができる？」の3つのテーマでグループワークを行いました。

①では、第2回ワークショップで作成した活用プラン案を改めて見直し、必要に応じて修正を加え、最後にそれぞれの活用プランのコンセプト（タイトル）を決めました。

②では、完成させた活用プランを実際に運営するための方法を、「誰が」「どのように」「お金はどうするか」、の3つの視点で考えました。難しいテーマでしたが、全体説明で紹介した参考事例や、参加者のみなさんの知恵や情報からもヒントを得て、様々なアイデアが出されました。「施設をつくったら終わりではない」という意識が共有された時間になりました。

そして③では、跡地活用開始まで、最短でも5年間ある中で、自分たちができることは何かを考えました。

体験を通じて、世代を超えて『遊べる場』

◇町三小跡地の活用プランを仕上げよう！

1組は、隣接する日向台北公園も合わせた一体的な活用を考えました。高台から恩田川を越えるジャンボ滑り台を設け、南側の高台部分には自由広場と遊具、北側の低地部分には水と土遊びの場や畑を設け、体験をしながら、子どもから大人まで世代を超えて遊べる場所を作るプランです。

活用プランのコンセプトは、「体験を通じて、世代を超えて『遊べる場』。多世代が集い、遊べる活用プランとなりました。

第2回のワークショップの内容から、交流施設を恩田川沿いの斜面部分に移動し、高台の平地部分（自由広場）を最大限活用できるように修正しました。

自由広場は、芝生の養生期間も利用できるよう芝生だけでなく、ゴム舗装のエリアも作ることにしました。また、北側低地部分の畑は収穫祭をみんなで盛大にできるように広くしました。さらに、日向台北公園を本町田ひなた小学校に通うお子さんの送迎の待ち合わせ場所や利用者の駐車場として活用すること、駐輪場を各入口に設けることを考えました。



◇どう運営するか考えよう！ ～地域主体の新しいNPO 法人による運営～

地域の人たちが日常的に利用するためにも、地域が主体となって運営することがよいのではという声がありました。具体的には、NPO 法人を立ち上げ、町内会自治会や大学、地域住民、子ども・高齢者の見守り活動をしている地域の団体である町田第二地区協議会などの団体が構成員となる案が出ました。また、夜間の運営についても話題となり、24 時間開いていなくてもよく、夜間は施錠がされる形でよいと話し合いました。

さらに、運営費を集める方法として、自由広場のイベント利用や交流施設の会議室、調理室などの利用料を徴収すること、駐車場を有料化すること、畑の野菜が採れたら収穫祭を開催し収益を充てる案が出ました。

◇活用スタートまでに、何ができる？～子どもの声をもっと取り入れて、仲間を増やす～

1 組では、現役の町三小に通うお子さんも参加していたので、子どもならではの意見も出ていたものの、参加者の中からは「もっと多くの子どもの声を聞きたい！」という声も上がりました。学校の授業で町三小跡地のことを考えることや、子どもが多く参加する地域のイベント（盆踊りなど）でアンケートをするなど、より多くの子どもの声を取り入れたほうがよいという意見がありました。

また、場所の作り方や運営方法などを学ぶために、事例見学ツアーをしたいという意見や、防災キャンプとして実際にテントを張ってみたいという意見もありました。さらに、その実施は、将来的に施設を管理する人が開催することが望ましいという意見もあり、今後さらにより多くの人や団体を仲間にしながらか検討が進められることを期待し、グループワークを終えました。



ゆったり過ごそう みんなの居場所

◇町三小跡地の活用プランを仕上げよう！

2組は、南側の高台に「芝生のひろば」、西側に建物、北側の低地部分に「土のひろば」、西側に建物を配置するプランを考えました。

「芝生ひろば」は、訪れた人の使い方を限定しないこと、そして建物は老若男女問わずみんなの居場所となるような活用プラン。そのような思いを込め、活用プランのコンセプトは、「ゆったり過ごそう みんなの居場所」としました。多世代が揃った2組だからこそ、思いやりにあふれた活用プランが完成しました。



◇どう運営するか考えよう！ ～地域の人も、事業者も、市も、協働による運営～

誰が運営するかという視点では、「管理経験のある民間事業者」、「市」、「地域の人たちを中心としたNPO」の三者が意見として挙げられ、地域と民間事業者でNPO法人を組織し、市が運営を委託するという形式がよいのではないかという意見があげられました。また、デイサービスのような機能を導入するのであれば、社会福祉法人なども考えられるといった意見もありました。

誰か一者に管理運営を任せるのではなく、三者がお互いに役割を持ち、「権限」「管理」「意見」を明確にして運営することが大切という意見もあげられていました。民間事業者は、その強みを活かして資金を集め、地域は、地域住民を通じて利用者の声をフィードバックし、土地を所有する市が必要に応じてバックアップするといった体制で、協働による運営を目指すべきという意見です。参加者の方が「地域の代表として運営に加わってもよい」と立候補するなど、誰かに丸投げしないという考えにもとづいた、責任感あふれる提案となりました。

◇活用スタートまでに、何ができる？ ～学ぶ・発想する・やってみる～

主に「勉強」「アイデア出し」「体験してみる」の3つの方向性が意見から見えました。

まずは、運営組織をつくるための勉強会や他の施設・事例の見学会、避難施設機能の取り入れ方の勉強など、跡地活用に向けた準備としての「勉強」です。

「アイデア出し」は、跡地活用のスタートまで期間があることを活かし、子ども・子育て世代・高齢者のそれぞれが跡地でやりたいことを考え、広く意見を集めるという意見です。またその過程を通して、跡地活用の周知にもつなげていけるとよいねと話し合いました。

「体験してみる」こととしては、子どもたちに跡地を考えるきっかけづくりとして、町三小に通う子供たちの授業の一環でビオトープづくりをしてもらおうという意見がありました。子どもたちの思い出にもなり、跡地活用が始まってからも、ここに遊びに来る理由になるのではないかと盛り上がりました。

地域住民として責任感を持ちながら、みんなで跡地の未来を考えようという思いが感じられました。



3組

「あ！ここに行こう！」地域のいこいと交流の場：みんなのサードプレイス

◇町三小跡地の活用プランを仕上げよう！

3組は、南側の高台に「自由に使える芝生広場」、北側の低地部分に「運動等ができる広場」、西側に建物を配置するプランを考えました。

「建物の中に本町田の歴史・文化に触れる場所を！」、「芝生広場に子ども用の遊具を！」、「スポーツ大会も開催できる規格を確保！」などの提案を追加して、活用プランを充実させました。

子どもや高齢者、子育て中の親など多世代が「ここに来れば、誰かがいて安心できる、楽しい空間になればよいな」という思いを込めて『あ！ここに行こう！』地域のいこいと交流の場：みんなのサードプレイス」というコンセプトにしました。参加者の方のこれまでの経験などにもとづいた、思いの詰まったコンセプトになりました。



◇どう運営するか考えよう！ ～事業者・市が核となりながら地域サポートによる運営～

施設として運営していくためには、「やはりプロが仕事として携わるのがよいのではないか」と施設運営の経験のある参加者から意見があり、「市」「民間事業者」が中心となって担っていく方向性で意見交換を進めました。

ただ、プロに任せきりにするのではなく、地域には運営をサポートしてくれるボランティアの方もたくさんいるといった意見もあり、その方達にも関わっていただきながら、町内会・自治会や大学等も仲間に加え、運営委員会形式での運営がよいのではということで話がまとまりました。みんなの意見を取り入れながらよりよい方へ進んでいく、参加型の運営ができるとよいねと話をしました。

また、運営費を集める方法として、駐車場や会議室の利用料に加え、イベントや大会時などで場所を占有利用する際は、施設を持続的に運営するためにも、利用料を支払ってもらう仕組みがよいと思うが、その際、地域の方の利用は低額に、企業等の利用は高額にするなど利用者によって配慮が必要ということも話し合いました。

◇活用スタートまでに、何ができる？ ～事例見学・防災関連の取組み・プランの試行～

活用プランにある活用の「先行事例の見学」や災害用テントを組み立てて、火を起こして食事を作るなど、楽しみながら役立つ「防災イベント」を行うことなども意見としてあがりました。また、みんなのやってみたいことを「実際に試行してみる」ことを通じて、課題や地域のニーズを把握し、活用に向け、案をブラッシュアップしていこうと盛り上がりました。3組は大人中心のグループでしたが、普段から子ども達に関わっている方やスポーツ振興に力を入れている方、本町田の歴史に愛着がある方など、参加者の得意分野を活用プランに盛り込み、来年度への期待も込めて終了しました。



■活用プラン完成！ 総まとめの発表

全3回で考えてきたことの総まとめとして、活用プランを中心に各組の意見を発表しました。



■各組のファシリテーターからのコメント

1組

60年以上前に通っていたOBの方から、最後の卒業生になる現役小学生、地域の街づくりに携わる方と、様々な世代や背景の方と一緒に話し合いをしました。この場所が地域を繋ぐ大切な場所という共通認識を持ち、小学生の話にも皆で耳を傾け、次世代に引き継ぐ場所にしていきたい、地域の人に使ってほしいという想いが詰まったプランになりました。

2組

2組に集まった皆さんは、小学生、ママさん、働き盛りの方、人生の先輩の方、実に多様な方々でした。それでも意見交換は、和やかでありながら真剣で、地域のことを考えた提案になったと思います。提案タイトルの「ゆったり過ごそう みんなの居場所」は、まさに2組の特徴や思いを象徴していると思いました。

3組

3組は大人の方が中心のグループでしたが、普段から子ども達に関わっていらっしゃる方も多く、スポーツ振興に力を入れている方、本町田の歴史に愛着がある方など、各メンバーの得意分野がありました。活用プランには、そうした得意分野や経験等を活かしたアイデアを、たくさん盛り込みました。この町三小への思いは皆さん強く、来年度以降の期待も込めて終了しました。

■跡地の未来を一緒に考える、輪を広げる

各組の発表後、町田市政策経営部長から「いずれの組からも、『地域のコミュニティ形成の場として活用したい』『子どもから高齢者まで、誰もが思い思いに使える場所としたい』という思いが伝わった」、各組の活用プランを今後、市が決めていく活用の方向性に参考にさせていただく旨の話をさせていただきました。

また、学校跡地における避難施設機能の考え方についても触れ、町三小跡地に求められる避難施設機能は、これまでとは役割が変わる可能性があり、学校跡地周辺の状況等も踏まえながら、市の考え方をしっかり整理していくことを参加者に伝えました。

さらには、「今後は町三小跡地の未来を考える仲間を増やし、輪を広げていきたい。市は今後も引き続き、みなさんと一緒に考えられる場を設けていくので、今回参加いただいたみなさんには今後も積極的に参加し続けて欲しい」とみなさんにお伝えし、話をしめくりました。



■みんなで考える跡地活用に向けて・・・来年度以降の町三小跡地活用

最後に、市の担当者から2025年度に「市で進めたいこと」と「地域のみなさまと一緒に検討したいこと」についてお話しました。

「市で進めたいこと」としては、参加者のみなさんが考えた各活用プランなどを参考にしながら、跡地活用のコンセプト等を検討していくことをお伝えしました。

また、「地域のみなさまと一緒に取組みたいこと」として、引き続き市民ワークショップを行っていくことに加え、町三小の周辺の地域を代表する方に跡地検討の内容の共有や活用に向けた意見交換を行う「町田第三小学校跡地活用連絡協議会」を設置、開催する予定である旨をお伝えしました。

来年度の再会を約束して、最後に参加者とスタッフみんなで集合写真を撮って、今年度のワークショップ終了となりました。

